

## 今年はクラゲの当たり年 タコクラゲなど夏以降のクラゲの出現

海洋資源担当 石田鉄兵

Key word; ミズクラゲ, アカクラゲ, タコクラゲ, ヌウレイクラゲ, ヒゼンクラゲ, ハナガサクラゲ, イボクラゲ, カツオノエボシ, ギンカクラゲ

---

### はじめに

水研だより 62 号「招かざる客アカクラゲとミズクラゲの徳島県沿岸への大量来遊」に詳しく紹介されていますように、徳島県沿岸部では平成 19 年 4 月～6 月にかけて徳島県沿岸にミズクラゲやアカクラゲが大量に出現しました。その対策として水研だより 63 号「想像以上に開く！海中の小型底曳網の形状」に水産研究所が行ったクラゲ被害防止対策調査について紹介しました。

その後、ミズクラゲおよびアカクラゲに代わって 8～9 月にタコクラゲ、9～10 月にユウレイクラゲが大量出現しました。ユウレイクラゲは主に伊島周辺に多く出現し、底曳き網漁業に被害を与えました。9 月 7 日には徳島空港近くの里浦沖合で操業していた底曳き網にヒゼンクラゲが入網しました。ヒゼンクラゲは主に有明海に生息しており、徳島県内では初めて確認されました。その他、10 月に海部沿岸で操業していた沖合底曳き網にハナガサクラゲが入網し、同じく海部沿岸で操業していた小型定置網にイボクラゲが入網しました。これら 2 種類のクラゲについては毎年入網し、今年には大量に発生していません。海洋観測中には 6 月に過去に刺されて死亡例のあるカツオノエボシが、8 月に水面を帆走するギンカクラゲがいずれも海部沿岸下灘で見られました。海部沿岸のある漁業者によれば今年にはカツオノエボシ(電気くらげ)があまりみられなかったそうです。これは、外洋性のカツオノエボシが徳島県沿岸部に来遊する春～夏にかけて、紀伊水道沖合の黒潮が離岸傾向で流れていたため、海部沿岸へ黒潮系水があまり流入しなかったことが原因としてあげられます。

このように平成 19 年は年間を通して様々な種類のクラゲが出現し、中には大量出現したものや漁業に大きな影響を与えたものもありました。今報告では夏以降に大きな話題となったタコクラゲについて簡単に紹介したいと思います。

### タコクラゲの出現

タコクラゲは鉢水母類 根口水母目に属する無毒のクラゲです。体色は濃褐色で黄色の斑点を持つものが多いそうですが、青色の体色を持つものもみられました。これらの体色はクラゲに共生している褐虫藻が体内に詰まっているために見える色です。宿主であるクラゲは、褐虫藻に安全な生活環境を提供する代わりに、褐虫藻から光合成で生産された栄養分をもらいます(久保田 2007)。水産研究所で飼育していたタコクラゲに光を当てると激しく運動し、光が無くなると、死んでしまったかのように動かなくなりました。これは体内にある褐虫藻が光合成をするために太陽を求めて行動しているからだと考えられます。自然界においてタコクラゲは、光合成を行うことで、海中のほとんどの生物にとって有害な二酸化炭素を取り除き、海水に酸素を供給する働きをしています(平山 2006)。その他、8 本の太い口腕があることも大きな特徴です(写真 1)。写真 1 の様にかわいらしい姿をしており、小さくてカラフルで動きがよいため、ペットとしても大変人気があります。

水産研究所には美波町の木岐漁協から 8 月 28 日にタコクラゲが大量に出現したとの連絡がありました。過去には海陽町穴喰の竹ヶ島や浅川など県南部では見られていたそうですが、美波町で今年のように大量発生したことはありません。タコクラゲは 8～9 月に茨城県の水戸以南の太平

洋側の港湾に出現し、適水温は 28 以上であることが知られています(山路 1966)。水産研究所が観測している日和佐地先水温は 8 月 10 日～10 月 17 日まで 28 を超えていました。このように 8～10 月にかけてタコクラゲにとっての適水温が継続したことが、大量発生した大きな原因であると考えられます。タコクラゲは太平洋域に生息する種類であるため黒潮の流れに乗って外海から来遊したものと思われましたが、漁業者によると目に見えるか見えない程度の大きさのものが大量にあり、それら小サイズのものが 2～3 日のうちに急激に大きくなったことから徳島県の港湾内で再生産した可能性もあると思われます。



写真 1. タコクラゲ(Mastigias pupua L. AGASSIZ).

体色は褐色や青色であり、強い光の下で激しく動き回る。

美波町～海陽町の海部沿岸の港湾内において、8 月 28 日～9 月末まで出現し、10 月中旬に消滅した。

以上、タコクラゲについて紹介しましたが、その他の種類も含めて平成 20 年以降もクラゲの動向に注視していきたいと考えています。

#### 参考資料

久保田信, 2007: 模様のあるクラゲ. クラゲの不思議 海を漂う奇妙な生態, 久保田信・上野俊士郎 監修, 技術評論社, 東京, 108-113.

平山博文, 2007: 水を浄化する能力. クラゲの不思議 海を漂う奇妙な生態, 久保田信・上野俊士郎 監修, 技術評論社, 東京, 200-203.

山路 勇, 1966: 日本海洋プランクトン図鑑 第 3 版, 保育社, 東京, 538p.